

249④

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

249 第 2

特開平10-256748

(43) 公開日 平成10年(1998) 9月25日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

H 0 5 K 5/03

カバ-

G 1 1 B 33/02

5 0 1

F I

H 0 5 K 5/03

B

G 1 1 B 33/02

5 0 1 B

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号

特願平9-57568

(22) 出願日

平成9年(1997) 3月12日

(71) 出願人 000002185

ソニー株式会社

東京都品川区北品川6丁目7番35号

(72) 発明者 清水 邦夫

東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内

(74) 代理人 弁理士 小松 祐治

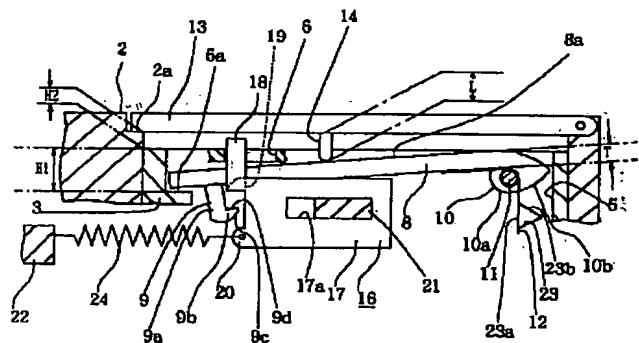
(54) 【発明の名称】 二重蓋構造

(57) 【要約】

【課題】 外側蓋と内側蓋とを一度に閉塞することができるようにする。

【解決手段】 外郭筐体2を開閉する外側蓋13と、外郭筐体の内部に配置された内部筐体3の凹部5を開閉する内側蓋8とを備えた二重蓋構造であって、外側蓋には押圧部14が形成され、内側蓋には外側蓋が閉塞されるときに該外側蓋の押圧部に押圧される被押圧部8aが形成された。

2...外郭筐体
3...内部筐体
5...凹部
8...内側蓋
8a...外面(被押圧部)
13...外側蓋
14...押圧突起(押圧部)



【特許請求の範囲】

【請求項1】 外郭管体を開閉する外側蓋と、外郭管体の内部に配置された内部管体の凹部を開閉する内側蓋とを備えた二重蓋構造であって、
上記外側蓋には押圧部が形成され、
上記内側蓋には外側蓋が閉塞されるときに該外側蓋の押圧部に押圧される被押圧部が形成されたことを特徴とする二重蓋構造。

【請求項2】 上記外側蓋の押圧部が外側蓋の内面に設けられた押圧突起又は外側蓋の内面であり、
上記内側蓋の被押圧部が内側蓋の外表面又は内側蓋の外表面に設けられた被押圧突起であることを特徴とする請求項1に記載の二重蓋構造。

【請求項3】 内側蓋が外側蓋の押圧によって該外側蓋と共に閉塞されたときの内側蓋の閉塞位置が、外側蓋が閉塞されず内側蓋のみが閉塞されたときの内側蓋の閉塞位置よりも上記凹部の内底面に寄った位置であることを特徴とする請求項1に記載の二重蓋構造。

【請求項4】 内側蓋が外側蓋の押圧によって該外側蓋と共に閉塞されたときの内側蓋の閉塞位置が、外側蓋が閉塞されず内側蓋のみが閉塞されたときの内側蓋の閉塞位置よりも上記凹部の内底面に寄った位置であることを特徴とする請求項2に記載の二重蓋構造。

【請求項5】 上記凹部内には記録媒体が装着される装着部が設けられ、
上記内側蓋が閉塞されたときにのみ上記記録媒体に対する再生及び／又は記録を行い得る再生及び／又は記録装置に適用したことを特徴とする請求項1に記載の二重蓋構造。

【請求項6】 上記凹部内には記録媒体が装着される装着部が設けられ、
上記内側蓋が閉塞されたときにのみ上記記録媒体に対する再生及び／又は記録を行い得る再生及び／又は記録装置に適用したことを特徴とする請求項2に記載の二重蓋構造。

【請求項7】 上記凹部内には記録媒体が装着される装着部が設けられ、
上記内側蓋が閉塞されたときにのみ上記記録媒体に対する再生及び／又は記録を行い得る再生及び／又は記録装置に適用したことを特徴とする請求項3に記載の二重蓋構造。

【請求項8】 上記凹部内には記録媒体が装着される装着部が設けられ、
上記内側蓋が閉塞されたときにのみ上記記録媒体に対する再生及び／又は記録を行い得る再生及び／又は記録装置に適用したことを特徴とする請求項4に記載の二重蓋構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は二重蓋構造に関する。

詳しくは、外側蓋と内側蓋とを一度に閉塞することができるようにする技術に関する。

【0002】

【従来の技術】 例えば、光ディスク等の記録媒体に係る再生を行うための再生部やスピーカ部等が一体的に形成されて成る本体部（内部管体）が外郭管体内に配置された所謂ステレオセットと称される再生及び／又は記録装置がある。

【0003】 このような再生及び／又は記録装置にあつては、一般に、外郭管体を開閉するための外側蓋と、内部管体に形成され内部に上記した記録媒体が装着される装着部を有する凹部を開閉するための内側蓋とを備えている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、上記したような外側蓋と内側蓋とを備えた従来の再生及び／又は記録装置にあつては、内側蓋の閉塞時には外側蓋の開閉を行うことができるが、内側蓋の開放時には外側蓋の開閉を行うことができないようになっていた。

【0005】 これは、内側蓋の開閉に拘らず外側蓋を開閉することができるようにした場合に、内側蓋を開放した状態で外側蓋を閉塞しその状態で再生及び／又は記録装置を放置してしまうと、内部管体と外側蓋との隙間で浮遊していた塵や埃が凹部内に入り込み装着部に付着してしまい、記録媒体に対する再生及び／又は記録に支障を来す可能性があり、これを避ける等のためである。

【0006】 従って、従来の再生及び／又は記録装置においては、常に、内側蓋を閉じてから外側蓋を閉じなければならず大変不便であり、2回蓋を閉じるという面倒な作業をしなければならず手間がかかってしまうという問題がある。

【0007】 そこで、本発明二重蓋構造は、上記した問題点を克服し、外側蓋と内側蓋とを一度に閉塞することができるようにすることを課題とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】 本発明二重蓋構造は、上記した課題を解決するために、外側蓋には押圧部が形成され、内側蓋には外側蓋が閉塞されるときに該外側蓋の押圧部に押圧される被押圧部が形成されたものである。

【0009】 従って、本発明二重蓋構造にあつては、外側蓋を閉塞すると内側蓋も同時に閉塞される。

【0010】

【発明の実施の形態】 以下に、本発明二重蓋構造の実施の形態を図示した実施の一例に従って説明する。

【0011】 尚、以下に示す実施例は本発明二重蓋構造を、例えば、コンパクトディスク（CD）プレイヤーを有する所謂ステレオセットである再生及び／又は記録装置に適用したものである。

【0012】 また、本明細書において方向を示すときは、図1における左下方に向かう方向を前、右上方に向

かう方向を後、左上方に向かう方向を左、右下方に向かう方向を右、上方に向かう方向を上、下方に向かう方向を下として説明をする。

【0013】再生及び／又は記録装置1は上方に開口した箱状の外郭筐体2とその内部に配置された内部筐体3、即ち、光ディスク（コンパクトディスク）に係る再生を行うための再生部やスピーカ一部等が一体的に形成されて成る本体部とを備えている（図1参照）。

【0014】外郭筐体2の前側の開口縁には段差部2aが形成され、該段差部2aは後述する外側蓋が閉じられたときにその前端縁を受ける受部とされる。

【0015】内部筐体3の上面にはその中央部から右方にかけて複数の操作摘子4、4、・・・が配置され、該操作摘子4、4、・・・は光ディスクに係る再生やその停止、或は、音量調整や音質調整等の各種の調整等を行うためのものである。

【0016】内部筐体3の上面の左側の部分には上方に開口する凹部5が形成され、該凹部5の内部には光ディスクが装着される図示しない装着部が設けられている。そして、凹部5の前側の開口縁には段差部5aが形成されている。

【0017】そして、内部筐体3には凹部5の右側の開口縁の前端部の近傍に位置する前後方向に長い矩形状の摘子挿通孔6が形成されている。また、内部筐体3の上面の右側縁部には前後方向に長い挿通孔7が形成されている。

【0018】内側蓋8は略矩形の板状を為し、その厚みTは図3に示す内部筐体3の上面と段差部5aとの間の距離H1よりも薄くされており、一端部が上記凹部5の左右両側壁の後端部でその上端部に回動自在に支持されている。そして、内側蓋8の内面他端部寄りの位置で右端部には係止爪9が垂設されている（図2参照）。

【0019】係止爪9は内側蓋8の内面からこれと垂直方向に突出した突出部9aと該突出部9aの先端部から内側蓋8の上記一端部側に突出した係止部9bとが一体に形成されて成る。そして、係止部9bは先端に行くに従い内側蓋8の内面に近づく円弧面9cと該円弧面9cに連続し内側蓋8の内面と平行な係止面9dとを備えている。

【0020】内側蓋8の内面の左右両側縁の一端部からは板状の軸支部10、10が垂設され（図2にひとつのもののみ示す。）、該軸支部10、10のうち右側に位置するもの10はその厚み方向と直交する方向を向く面の前半部が円弧面10aとされ、該円弧面10aに連続する後半部の面10bが略平面状を為し内側蓋8が閉塞された状態、即ち、水平な状態においては後方に行くに従って上方へ変位する当接面として形成されている。

【0021】そして、軸支部10、10は凹部5の側壁に両端部が固定された回動軸11の両端寄りの位置で回動自在に支持され、右側の軸支部10の直ぐ内側には、

コイル部が回動軸11に外嵌状に支持された捩じりコイルバネ12が内側蓋8の内面と後述するストッパ部との間に介挿され、捩じりコイルバネ12によって内側蓋8に図3乃至図9で見て時計回り方向への回動力が付勢される。

【0022】外側蓋13は左右方向に長い矩形の稍厚手の板状を為し、幅方向における一端部が外郭筐体2の後端部でその上端部に回動自在に支持され、内面の左半部の略中央から押圧突起14が垂設されている（図2参照）。そして、押圧突起14の軸方向の長さLは図3に示す外郭筐体2の受部2aと内部筐体3の上面との間の距離H2よりも稍長くされており、先端部は略半球状に形成されている。

【0023】外側蓋13の右側縁には支持棒15の一端部が回動自在に支持されている。そして、支持棒15は内部筐体3の右側縁部に形成された上記挿通孔7を挿通され、他端部が内部筐体3の内部で移動自在に支持されている。

【0024】開閉スイッチ16は主部17と摘子部18と係合部19とばね掛け部20とが一体に形成されて成る（図2参照）。

【0025】主部17は板状を為し左右方向から見て前後方向に稍長い長方形状をしており、その中央部に左右両側面を貫通し前後方向に延びる被案内孔17aが形成されている。

【0026】摘子部18は主部17の前端部から立設され内部筐体3に形成された上記摘子挿通孔6に下側から挿通され、その上端部が内部筐体3の上面から上方に突出されている。

【0027】係合部19は棒状を為し摘子部18の下端部から左方に突設され、また、ばね掛け部20は主部17の前面の下端部に前方に突出するようにして設けられている。

【0028】案内部21、ばね掛け部22、ストッパ部23がそれぞれ内部筐体3の内部に設けられている（図2参照）。

【0029】案内部21は矩形の板状を為し、上記開閉スイッチ16の被案内孔17aに挿通される。そして、案内部21の前後方向の長さは被案内孔17aのそれより短く形成されており、開閉スイッチ16が案内部21に対して前後方向に摺動自在に支持される。

【0030】ばね掛け部22は開閉スイッチ16の前方に位置されており、ばね掛け部22と開閉スイッチ16のばね掛け部20との間に引張コイルバネ24が張設されている。従って、引張コイルバネ24によって開閉スイッチ16には前方への移動力が付勢され、これにより後述するように開閉スイッチ16に後方への移動力が加えられていない状態においては、案内部21は開閉スイッチ16の被案内孔17aの後端に寄った位置にあり、また、開閉スイッチ16の摘子部18は摘子挿通孔6の

前端部に位置されている。

【0031】ストップ部23は開閉スイッチ16の後方に位置されており、左右方向に長い三角柱状に形成されている。ストップ部23の3つの長方形の面のうちの面23aは略前方を向く弾接面として形成され、該弾接面23aに上記振りコイルバネ12の一方の腕が弾接され、また、振りコイルバネ12の他方の腕は内側蓋8の内面に弾接されている。そして、長方形の面のうち他の面23bは略上斜め後方を向くストップ面として形成され、該ストップ面23bには後述するように内側蓋8が回動されて開放されたときにその軸支部10の当接面10bが当接し、これにより内側蓋8が開放状態で停止される。

【0032】次に、内側蓋8及び外側蓋13の開閉動作について説明をする(図3乃至図9参照)。

【0033】先ず、内側蓋8及び外側蓋13が閉塞された状態について説明をする(図3参照)。

【0034】外側蓋13はその前端縁が外郭筐体2の受部2aに載置され水平な状態とされ、内側蓋8の外側面8aが外側蓋13の押圧突起14によって上方から押圧されている。ここで、上記振りコイルバネ12のばね力は外側蓋13の自重により内側蓋8に対して生じる押圧力よりも小さくされている。そして、上記したように、押圧突起14の軸方向の長さが外郭筐体2の受部2aと内部筐体3の上面との距離よりも稍長く形成されており、かつ、内側蓋8の厚みが内部筐体3の上面と段差部5aとの距離よりも薄くされているため、内側蓋8はその前端縁が段差部5aの少し上方に位置し稍前下りの状態とされている。また、開閉スイッチ16は移動範囲における前端にあり、即ち、案内部21が被支持孔17aの後端に寄った状態とされている。

【0035】尚、外側蓋13は、上記のように、その自重によって閉塞状態が保たれるようになっているが、これに限らず、外郭筐体2と外側蓋13とが当接する部分にロック機構を設けて外側蓋13の閉塞状態を保つようにしてもよい。

【0036】上記のように、内側蓋8及び外側蓋13が閉塞された状態で外側蓋13を手動により開放する(図4参照)。

【0037】外側蓋13を開放すると、該外側蓋13による内側蓋8に対する押圧が解除され、これにより内側蓋8は振りコイルバネ12のばね力によって略上方へ回動される。そして、内側蓋8が略上方へ回動されたところで係止爪9の係止部9bと開閉スイッチ16の係合部19とが係合し、即ち、係止部9bの係止面9dが係合部19の下面と当接し、内側蓋8は水平な状態で停止される。

【0038】次に、内側蓋8を開閉するために開閉スイッチ16の摘子部18を操作し、該摘子部18を摘子挿通孔6の後端側に移動させる(図5参照)。

【0039】即ち、ばね掛け部22と開閉スイッチ16のばね掛け部20との間に張設された引張コイルバネ24のばね力に抗して摘子部18を摘子挿通孔6の後端側に移動させると、係合部19と内側蓋8の係止爪9との係合が解除され、内側蓋8は振りコイルバネ12のばね力により図5で見て時計回り方向へ回動されていく。

【0040】尚、摘子部18を摘子挿通孔6の後端側に移動させたときには開閉スイッチ16が案内部21に案内されて後方へ移動され、被案内孔17aの後端側に位置されていた案内部21は被案内孔17aの前端側に位置される。

【0041】そして、内側蓋8はさらに時計回り方向へ回動され、軸支部10の当接面10bがストップ部23のストップ面23bに当接したところで停止される(図6参照)。

【0042】尚、係合部19と係止爪9との係合が解除された後に摘子部18に対する後方への押圧を解除すると、開閉スイッチ16は引張コイルバネ24のばね力により前方へ移動され元の状態、即ち、案内部21が開閉スイッチ16の被案内孔17aの後端側に寄った位置に戻り、また、開閉スイッチ16の摘子部18は摘子挿通孔6の前端部に再び位置される(図6参照)。

【0043】上記のように外側蓋13及び内側蓋8が開放された状態から外側蓋13を閉塞すれば、以下に示すように内側蓋8も同時に閉塞される。

【0044】外側蓋13を図7で見て手動により反時計回り方向に回動していくと、外側蓋13の押圧突起14が内側蓋8の外側面8aに当接する(図7参照)。

【0045】さらに外側蓋13を反時計回り方向に回動させていくと、内側蓋8は外側蓋13の押圧突起14に押圧され外側蓋13と共に図7で見て反時計回り方向に回動される。そして、反時計回り方向に回動された内側蓋8は、その係止爪9の係止部9bが開閉スイッチ16の係合部19に当接する。即ち、係止部9bの円弧面9cが係合部19に当接し、さらに外側蓋13の回動により内側蓋8が回動されていくと円弧面9cと係合部19とが摺接し、このとき開閉スイッチ16は引張コイルバネ24のばね力に抗して僅かに後方に移動される(図8参照)。

【0046】さらに外側蓋13の回動により内側蓋8が反時計回り方向に回動され円弧面9cと係合部19との摺接が解除されたところで、開閉スイッチ16は引張コイルバネ24のばね力により前方へ移動され元の状態に戻る(図9参照)。このとき内側蓋8は略水平な状態となっており、外側蓋13は稍前上りの状態とされている。

【0047】そして、上記したように、内側蓋8の厚みが内部筐体3の上面と段差部5aとの距離よりも薄くされているため、内側蓋8の前端縁が段差部5aの少し上方に位置し稍前下りの状態となるまで以下のように外

側蓋13の回転により内側蓋8は図9で見て反時計回り方向にさらに回転される。

【0048】図9の状態、即ち、外側蓋13が稍前下がりの状態からさらに反時計回り方向に回転されると該外側蓋13はその前端縁が外郭筐体2の上記受部2aに当接し水平な状態となり、外側蓋13の押圧突起14によって押圧された内側蓋8はその前端縁が段差部5aの少し上方に位置し稍前下がりの状態になるまで反時計回り方向に回転される。そして、上記したように、振じりコイルバネ12のばね力が外側蓋13の自重により内側蓋8に対して加えられる押圧力よりも小さくされているため、上記の状態、即ち、外側蓋13が水平の状態、内側蓋8が稍前下がりの状態が保たれ、この状態が外側蓋13及び内側蓋8が共に閉塞された状態となる。

【0049】このように内側蓋8の厚みを内部筐体3の上面と段差部5aとの距離よりも薄く形成し、外側蓋13が閉塞されたときに内側蓋8がその前端縁が段差部5aの少し上方に位置し稍前下がりの状態で閉塞されるようにしてあれば、再生及び／又は記録装置1の製造工程において寸法公差等により外側蓋13や内側蓋8の位置精度に多少のずれが生じて、常に、外側蓋13はその前端縁が受部2bに当接し、かつ、内側蓋8はその前端部が内部筐体3の上面から段差部5aまでの間に位置され、外側蓋13及び内側蓋8を同時に確実に閉塞することができる。

【0050】図示しない光ディスクの再生は以下のように行う。

【0051】まず、外側蓋13及び内側蓋8が閉塞された状態（図3参照）から、上記と同様にして外側蓋13を開放し（図4参照）、続いて内側蓋8を開放する（図6参照）。そして、この図6の状態では内部筐体3の凹部5の上方が開口されており、該凹部5内に設けられた装着部に図示しない光ディスクを装着する。

【0052】光ディスクを装着した後、内側蓋8のみを閉塞する。内側蓋8を閉塞するには、内側蓋8を振じりコイルバネ12のばね力に抗して図6で見て反時計回り方向に、以下に示すように手動で回転することにより行う。

【0053】図6の状態から内側蓋8を反時計回り方向に回転させていくと、内側蓋8が外側蓋13の押圧突起14に押圧されて回転される場合と同様に係止爪9の円弧面9cと係合部19とが摺接し開閉スイッチ16が引張コイルバネ24のばね力に抗して僅かに後方に移動される。そして、内側蓋8が反時計回り方向にさらに回転され、係止爪9の円弧面9cと係合部19との摺接が解除されたところで、開閉スイッチ16は引張コイルバネ24のばね力により前方へ移動され元の状態に戻り、ここで内側蓋8に対する手動による上方側からの押圧を解除することにより係止爪9と係合部19とが係合され、これにより内側蓋8は水平な状態で閉塞される（図4参

照）。

【0054】そして、このように内側蓋8のみが閉塞された状態において、内部筐体3の上面に設けられた操作摘子4、4、・・・のうちの再生用摘子を操作することにより凹部5内の装着部に装着された光ディスクの再生が為される。また、光ディスクに係る音量調整や音質調整等は操作摘子4、4、・・・のうちの各摘子4、4、・・・を操作することにより行う。

【0055】尚、再生及び／又は記録装置1にあっては、光ディスクの再生は内側蓋8が閉塞された状態、即ち、内側蓋8及び外側蓋13が共に閉塞された状態か、或は、内側蓋8が閉塞され外側蓋13が開放された状態でなければ行われなくなっている。

【0056】上記したように、再生及び／又は記録装置1にあっては、外側蓋13に押圧突起14を設け外側蓋13を閉塞するときに押圧突起14が内側蓋8の外周面8aを押圧して外側蓋13と内側蓋8とが一度に閉塞されるようになっており、逆に、外側蓋13を開放しても該外側蓋13と同時に内側蓋8が開放されることはない。

【0057】従って、上記のように内側蓋8が閉塞された状態でしか光ディスクの再生が為されないようになっている上記装置1に適合し、即ち、光ディスクの再生中に外側蓋13を開放する必要がある場合、例えば、音量調整や音質調整を行おうとした場合に内側蓋8が同時に開放されて再生が停止してしまうというような不具合を生じることはない。

【0058】光ディスクの装着部からの取出は、以下のように行う。

【0059】内側蓋8及び外側蓋13が共に閉塞された状態（図3参照）からの光ディスクの取出は、まず外側蓋13を開放し（図4参照）、次に内側蓋8を開放し（図6参照）、装着部から再生が終了した光ディスクを取り出すことにより行う。

【0060】また、内側蓋8が閉塞され外側蓋13が開放された状態（図4参照）からの光ディスクの取出は、内側蓋8を開放し（図6参照）、装着部から再生が終了した光ディスクを取り出すことにより行う。

【0061】しかして、上記した再生及び／又は記録装置1にあっては、外側蓋13を閉塞するときにその押圧突起14が内側蓋8の外周面8aを押圧して、外側蓋13と内側蓋8とを一度に閉塞することができるため、2回蓋を閉じる作業、即ち、内側蓋8を閉じてから外側蓋13を閉じるという面倒な作業を行う必要がなく手間を省くことができる。

【0062】また、外側蓋13の内面に押圧突起14を設けるという簡単な構造により外側蓋13と内側蓋8とを一度に閉塞することができるため、外側蓋13と内側蓋8を一度に閉塞させるために他の特別な機構を設ける必要がなく、再生及び／又は記録装置1の製造コストが大幅に増加してしまうようなことがない。

【0063】尚、上記には、外側蓋 13 に押圧突起 14 を設け、該押圧突起 14 によって内側蓋 8 が押圧されることにより外側蓋 13 及び内側蓋 8 が一度に閉塞される場合について示したが、逆に、内側蓋 8 の外面 8a に被押圧突起を設け、外側蓋 13 が回転するときに該外側蓋 13 の内面が被押圧突起を押圧することにより外側蓋 13 及び内側蓋 8 が一度に閉塞されるようにしてもよい。この場合にあっても、外側蓋 13 に押圧突起 14 を設けた場合と同様の効果を奏する。

【0064】また、外側蓋 13 及び内側蓋 8 の何れにも突起を設けず、外側蓋 13 が回転するときに該外側蓋 13 の内面が内側蓋 8 の外面 8a と接するようにして外側蓋 13 が内側蓋 8 を直接押圧することにより外側蓋 13 及び内側蓋 8 が一度に閉塞されるようにしてもよい。この場合にあっても、外側蓋 13 に押圧突起 14 を設けた場合と同様の効果を奏する。

【0065】

【発明の効果】以上に記載したところから明らかなように、本発明二重蓋構造は、外郭筐体を開閉する外側蓋と、外郭筐体の内部に配置された内部筐体の凹部を開閉する内側蓋とを備えた二重蓋構造であって、外側蓋には押圧部が形成され、内側蓋には外側蓋が閉塞されるときに該外側蓋の押圧部に押圧される被押圧部が形成されたので、外側蓋を閉塞するときはその押圧部が内側蓋の被押圧部を押圧して、外側蓋と内側蓋とを一度に閉塞することができるため、2 回蓋を閉じるという面倒な作業を行う必要がなく手間を省くことができる。

【0066】請求項 2 に記載した発明にあつては、外側蓋の押圧部が外側蓋の内面に設けられた押圧突起又は外側蓋の内面であり、内側蓋の被押圧部が内側蓋の外面又は内側蓋の外面に設けられた被押圧突起であるので、外側蓋の内面に押圧突起又は内側蓋の外面に被押圧突起を設けるといふ簡単な構造により外側蓋と内側蓋を一度に閉塞することができるため、外側蓋と内側蓋とを一度に閉塞するのに他の特別な機構を設ける必要がなく、これにより製造コストが大幅に増加してしまうようなことがない。

【0067】請求項 3 及び請求項 4 に記載した発明にあつては、内側蓋が外側蓋の押圧によって該外側蓋と共に閉塞されたときの内側蓋の閉塞位置が、外側蓋が閉塞されず内側蓋のみが閉塞されたときの内側蓋の閉塞位置よりも上記凹部の内底面に寄った位置であるので、製造工

程において寸法公差等により外側蓋や内側蓋の位置精度に多少のずれが生じて、常に、外側蓋及び内側蓋を同時に確実に閉塞することができる。

【0068】請求項 5 乃至請求項 8 に記載した発明にあつては、凹部内には記録媒体が装着される装着部が設けられ、内側蓋が閉塞されたときにのみ上記記録媒体に対する再生及び／又は記録を行い得る再生及び／又は記録装置に適用したので、内側蓋は外側蓋を閉塞するときはその押圧部が内側蓋の被押圧部を押圧することにより外側蓋と共に閉塞されるようになっており、逆に、外側蓋を開放したときには押圧部が被押圧部を押圧せず同時に内側蓋が開放されることがないため、記録媒体の再生及び／又は記録中に外側蓋を開放した場合でも内側蓋が開放されて再生及び／又は記録が停止してしまうような不具合を生じることがない。

【0069】尚、上記した実施例において示した各部の具体的な形状及び構造は、何れも本発明を実施するに際しての具体化のほんの一例を示したものにすぎず、これらによって本発明の技術的範囲が限定的に解釈されることがあつてはならないものである。

【図面の簡単な説明】

【図 1】図面は本発明二重蓋構造を再生及び／又は記録装置に適用した実施の一例を示すものであり、本図は再生及び／又は記録装置の概略斜視図である。

【図 2】要部の拡大斜視図である。

【図 3】図 4 乃至図 9 と共に外側蓋及び内側蓋の開閉動作を一部を断面にして示す側面図であり、本図は外側蓋及び内側蓋が閉塞された状態を示す図である。

【図 4】外側蓋のみが開放された状態を示す図である。

【図 5】図 4 に続き、内側蓋を開放しようとした直後の状態を示す図である。

【図 6】図 5 に続き内側蓋が開放された状態を示す図である。

【図 7】外側蓋と共に内側蓋を閉塞しようとした直後の状態を示す図である。

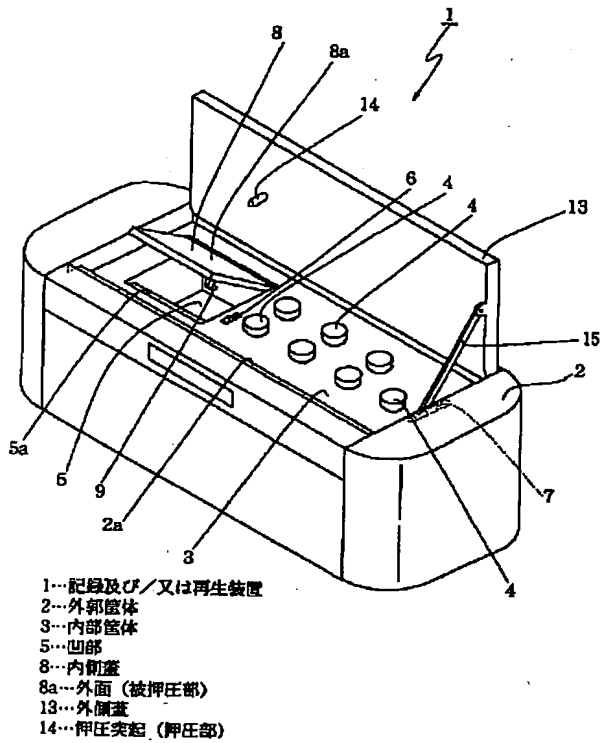
【図 8】図 7 に続く状態を示す図である。

【図 9】図 8 に続く状態を示す図である。

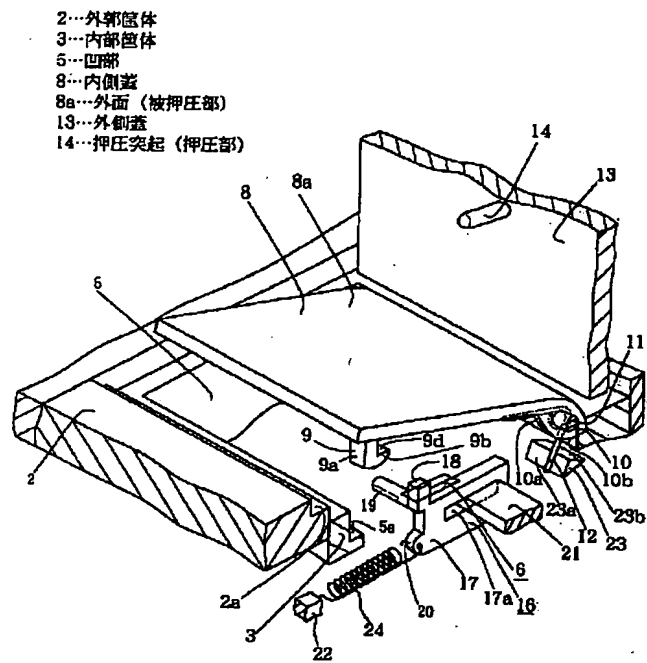
【符号の説明】

1…再生及び／又は記録装置、2…外郭筐体、3…内部筐体、5…凹部、8…内側蓋、8a…外面（被押圧部）、13…外側蓋、14…押圧突起（押圧部）

【図1】

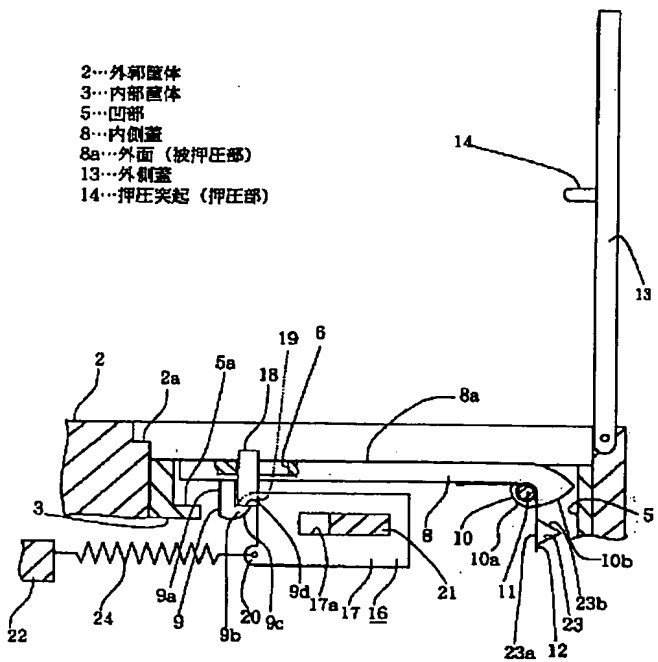
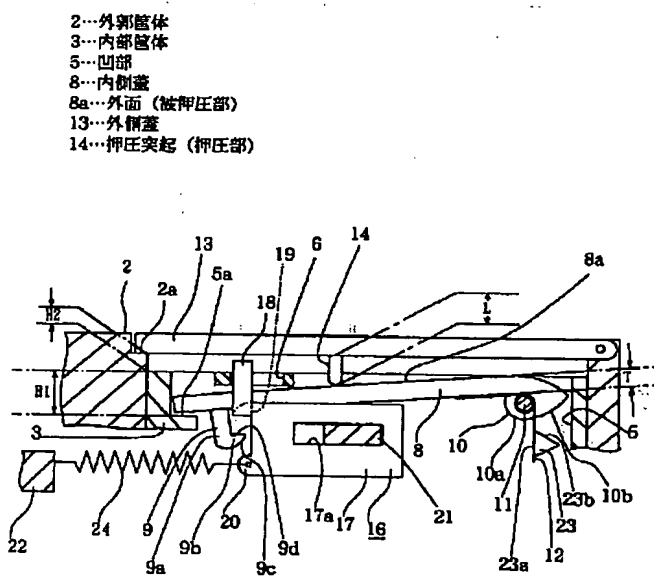


【図2】

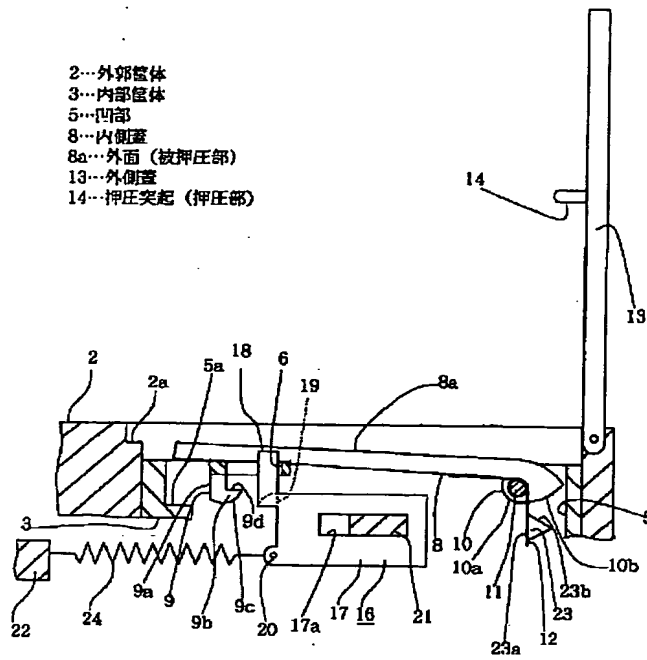


【図4】

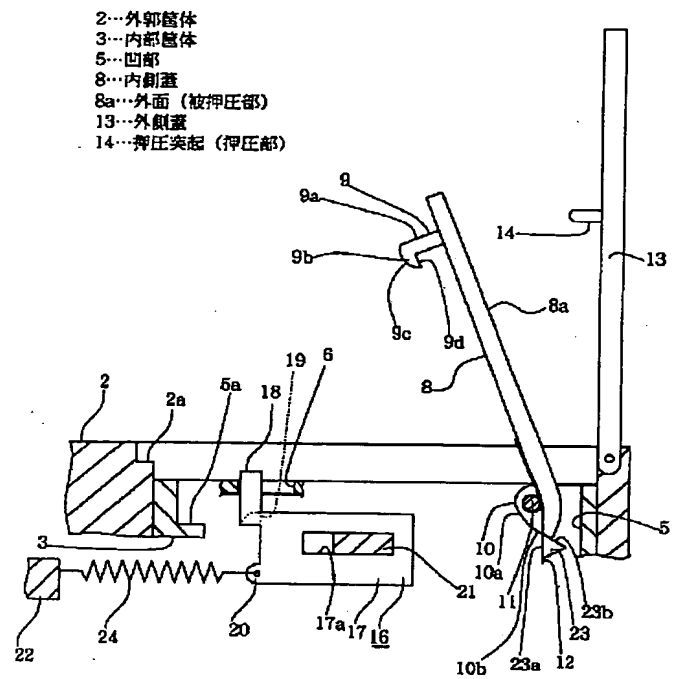
【図3】



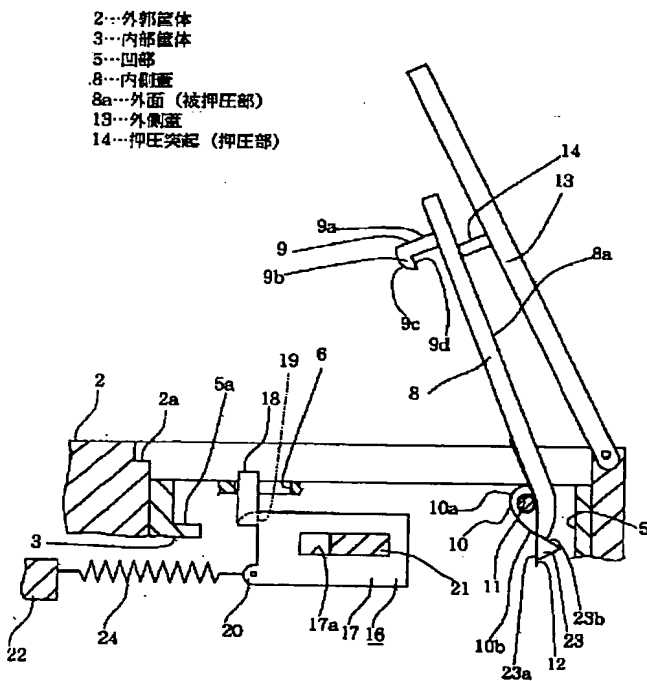
【図5】



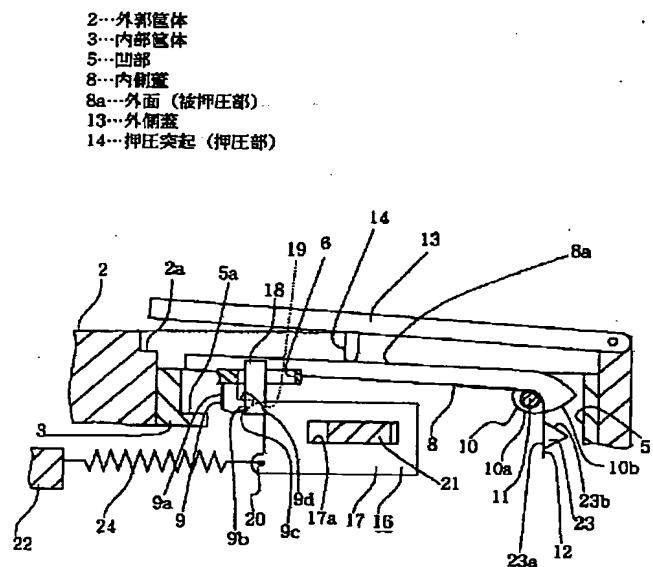
【図6】



【図7】

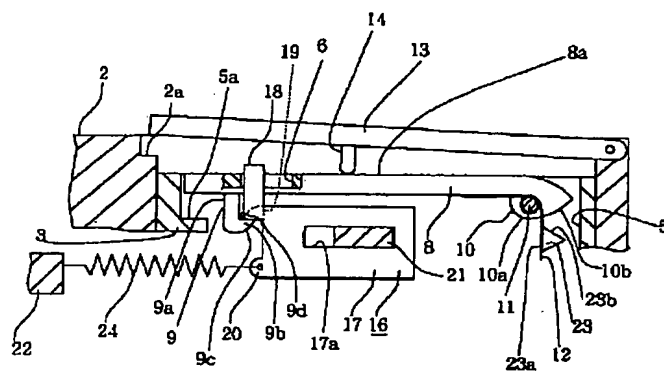


【図8】



【図 9】

- 2…外郭筐体
 3…内部筐体
 5…凹部
 8…内側蓋
 8a…外面（被押圧部）
 13…外側蓋
 14…押圧突起（押圧部）



THIS PAGE BLANK (USPTO)